

令和4年10月21日

保護者の皆さまへ

吹田市立佐井寺中学校

校長 山口 廣治

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学、理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

●国語科《概要》

- <話すこと・聞くこと> … 全国値をやや下回る。
- <書くこと> … 全国値とほぼ同じ。
- <読むこと> … 全国値を上回る。

●国語における成果と今後の改善点について

今年度<読むこと>において全国平均を上回る結果となりました。「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」という趣旨の問題に関して、全国値を上回る結果となりました。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも、漢字・言語に関する知識の定着への取り組みの成果が見られました。

しかし、「情報の扱い方に関する事項」で、「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くの項目」が全国値をやや下回る結果となりました。

このことから、今後「読むこと」に関しては今までの取り組みを継続していき、「書くこと」の領域において、自分の意見や考えを構築し、それを論理的に記述し、表現できるような取り組みを展開していきたいと考えます。

●数学科《概要》

- 〈数と式〉 … 全国値を上回る。
- 〈図形〉 … 全国値をやや上回る。
- 〈関数〉 … 全国値を上回る
- 〈データの活用〉 … 全国値をやや上回る

●数学における成果と今後の改善点について

正答率においては、ほとんどの問題で全国平均を上回っています。しかし、無解答率については、全国平均を上回っている問題が存在しています。

正答率が全国平均を下回った問題は、証明で用いられる三角形の合同条件を書く問題でした。7割以上の生徒が正解していますが、全国平均も高かったためやや下回ったという状況です。また、全国平均よりも無回答率が高く、半分近くの生徒が無解答だったのが、「理由を示し、説明をする」問題でした。記述式の問題に対して、苦手意識を持つ生徒が多いことが伺えます。

このことから、今後の授業では、計算等の技能の習得に終始することなく、既習事項との関連や実生活への活用を意識した指導を進めてまいります。答えを出すだけでなく、そこに至る思考の過程を他者に伝える、という活動を多く取り入れた授業を研究していきたいと思っております。

●理科

- 〈「エネルギー」領域〉 …全国値をやや上回る。
- 〈「粒子」領域〉 …全国値をやや下回る。
- 〈「生命」領域〉 …全国値をやや下回る。
- 〈「地球」領域〉 …全国値をやや上回る。

●理科における成果と今後の改善点について

「エネルギー」の領域では、日常的な話題の中で、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかを見る問題や、エネルギーの変換に関する問題の正

答率がやや低く、苦手でした。

「粒子」の領域では、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかの問題の正答率がやや下回っていました。

「地球」の領域では、百葉箱の観測データと天気図を関連付けて、天気の変化を分析する問題が全国平均を下回っています。また、地層の広がり方について時間的、空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析する問題が全国平均よりやや下回っています。

「生命」の領域では、実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行う問題や、探究の過程の見通しをもつことができるかを問う問題については、全国平均を下回っています。

このことから、今後「粒子」の領域や、「エネルギー」の領域といったイメージをしにくい内容は、モデル図を使ったり、ICTを活用し、可視化しながら理解をさせられるように取り組んでいきます。また、実験結果を分析し、考察することも苦手な傾向があるため、結果を分析し、考察する力をつけられるように実験中指導していきます。また、理科の教員同士で授業交流などを行い研究していきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

「自分には良いところがある」の項目に、「当てはまる」と答えた人の割合が、全国平均を下回っています。また、「将来の夢や目標を持っている」に「当てはまる」と答えた生徒も少なく、全国平均を下回っています。これらに関しましては、数年来校区内両小学校との合同研修・連携の中でも、校区全体の課題としてとらえております。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という項目についても全国平均をやや下回っていました。子どもの自尊感情を高める取り組みを両小学校とともに推進していきます。生徒の真面目で、一生懸命に取り組む姿勢を認め、生徒の良い部分を伸ばしながら、一社会人として互いを思いやれるよう教育活動を行っていきます。

【教科・学習について】

「学校の授業時間以外に、普段一日あたり2時間以上勉強している(学習塾や家庭教師等での学習時間も含む)」と回答した生徒が、全国平均を下回っています。一方で、「1時間より少ない。」「全くしない。」という生徒が全国平均より上回っています。このことから学校の授業時間以外に勉強している時間が少ない

生徒が多いことがわかります。

「読書をしますか」という質問に対して、「全くしない」と回答した人が45%近くいました。「新聞を読んでいますか」という項目では85%近い生徒が「ほとんど、または、全く読まない」と全国平均よりも多いです。

「放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。」という項目では、「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」が一番多く、続いて「学校の部活動に参加している。」が多いです。このことから、休日は勉強する時間よりも、SNS や、動画などを視聴している生徒が多いことがわかりました。

3 今後の取り組み

前述の分析の通り、学習面では、たくさんの情報の中から必要な情報を取り入れることや、実験結果を分析することをもとに、自分の意見や考えを構築し、論理的に記述し、表現できる取り組みを展開していきたいと考えます。

生活面では、今年も本校の生徒の学力については概ね良好な状態であると考えています。また、教科の学習に関して、まじめに取り組んでいる佐井中生の姿が垣間見えます。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を意識し、学校全体で研究を進めていきます。

学びの素地は持っている子どもたちが、これからの時代に求められている主体的に学びを活用し、人生や社会に生かせる力を養うためには、保護者・地域との連携・協働が不可欠となります。学校と保護者・地域が「目標やビジョン」を共有し、社会総掛かりで子どもたちを育むことが求められています。

今後とも佐井寺中学校の教育活動に、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。